



2025年度 年間事業計画書/予算書(案)

提出日:2024年12月21日

委員会名 青少年育成委員会

副理事長名:織田 正弘
委員長名:植松 龍太郎

1. 基本方針

運動をきっかけに自信を持ってもらい様々なことにチャレンジできる人材の育成を目指す。

2. 年間事業計画

事業名	事業内容	実施年月日
5月例会 (公益目的支出対象事業)	風の子興譲館第34回わんぱく相撲つる場所の実施	2025年5月15日(木)
10月例会 (公益目的支出対象事業)	体を動かすことで自己肯定感が上がり新しいことにチャレンジするきっかけとなる例会の実施	2025年10月17日(木)
議事録の作成	理事会の議事録の作成	3月、7月、11月
会員拡大	事業を通じた会員拡大の実施	通年

3. 事業予算

収入の部	
事業費繰入収入	302,000円
合計	302,000円

支出の部	
5月例会 (公益目的支出対象事業)	162,000円
10月例会 (公益目的支出対象事業)	140,000円
合計	302,000円

4. 前回までの流れ(意見と対応)

① 予定者三役会(協議)

意見		対応
1	基本方針の、自信を持ってもたってどういう風になるのか。	上記の様に変更しました。
2	10月「楽しみを知ってもらう」の先にどうなってほしいか。	体を動かす楽しみをきっかけに様々な成長に繋がってほしい。
3	所信と関連付けて。	所信と関連付けました。

② 三役会(協議)

意見		対応
1	なし。	

③ 予定者理事会(協議)

意見		対応
1	チャレンジできる人材は人をメインか、地域を目的にしているか。	チャレンジできる人材が増えることは必然的に地域社会の活性化につながる為、まずはチャレンジできる人材育成を優先します。
2	運動フェスで縛り付けなく限定なく書いた方が良いのではないか。	上記の様に変更しました。
3	運動をきっかけだと運動にしか自信が持てないのではないか。	「運動」ではなく「体を動かす」に変更しました。体を動かすことで交感神経が優位になる時間が増えポジティブになりやすいことが分かっています。体を動かすと、セロトニン(ハッピーホルモン)の分泌により、授業に積極的に参加したり、友だち、家族間のコミュニケーションが増えたりと運動だけの自信ではなく、他のことにも自信が付くと言えます。ある論文では、部活動をしている子は比例して学力も高いという結果もでています。

④ 理事会(協議)

意見		対応
1	なし	

⑤ 予定者三役会(審議)

意見		対応
1	なし	

⑥ 三役会(審議)

意見		対応
1	チャレンジできる人材とは。	自分のため、家族のため、地域社会のために自ら動き貢献できる人材のこと
2	チャレンジできる人材の先になにを目指しているか。	・人生がより豊かになることを目指す 自分個人：新しい価値の創出(好きなこと、やりたいことが見つかる)、家族：コミュニケーションが増える、会話が增多ることは家族間の繋がりを強める、地域社会：積極的に動ける人材は地域社会の活性化に繋がる
3	体を動かすことと自己肯定感が上がることはどう繋がるか。	体を動かすことで血流が促進され豊富な酸素と栄養を脳に運ぶことができ、認知能力を向上させ集中力や記憶力を高める働きのあるノルアドレナリンを分泌させます。つまり体を動かすことは集中力、記憶力、情報処理能力などが高まり勉学や部活動など結果にも紐づき成功体験が増えれば自己肯定感も上がることになる。
4	チャレンジできる人材が地域にどのようなメリットがあるか。	大きく見れば、外遊びやスポーツ時間の減少、空き地や生活道路と言った子供たちの遊び場の減少、少

	子化による仲間の減少、インターネットやゲームの普及、怪我やリスクを恐れる親の過保護化、あるいは治安といった現代の中で、都留地域ではチャレンジできる人材を人財として、育成することは、体を動かす場を作ることに繋がったり、都留地域外から人が移住するようになったりするメリットが考えられる。
--	---

⑦ 予定者理事会(審議)

意見		対応
1	なし	